

## シンポジウム【HBO医療スタッフのタスク（働き方改革との関連）】

### 高気圧酸素治療

### スタッフの働き方改革についての考察

荒井好範<sup>1)</sup> 大畑雄太<sup>2)</sup> 栗根康平<sup>2)</sup> 金井克好<sup>2)</sup>  
廣谷暢子<sup>2)</sup> 青木理香<sup>2)</sup> 高柴國治<sup>2)</sup> 土居 浩<sup>1)</sup>

1)牧田総合病院 高気圧酸素治療センター 脳神経外科  
2)牧田総合病院 CE部

2024年4月から適用となる「医師の働き方改革」に向けて、医師への業務集中を緩和するためにタスクシフトが推進されている。当院では25人の常勤CEがいて、その業務は多岐にわたる。従来業務であった人工呼吸器の作動確認や点検・管理・穿刺や人工透析装置の操作や管理・手術室内の医療機器の操作や事前の管理に加え、現在タスクシフトが進んでいるのは、手術の器械出し、鏡視下手術でのカメラの保持・操作、内視鏡検査・治療時の処置具の操作などの補助などである。当院では第1種高気圧酸素治療装置4基をフル稼働していて、年間4,354件（2022年度）治療を行った。その中で治療中に中断した事例があり、医師へ報告し、継続の有無などを確認するが、主治医は様々であり、その労力には時間を要する。また高気圧酸素治療は様々な疾患に対して治療を行っているため、各主治医の検査説明内容も様々で、いざ治療を開始しようと思っても、「そんなこと聞いていない」など、トラブルになることもある。「説明と同意」を専門医と共同作業としてCEも関与するとかなりのタスクシフトになると思われる。

当院ではCEへのタスクシフトを積極的に行っており、医師への負担軽減や患者さんへのサービス向上に貢献している。CEは医療機器に関する専門知識や技術を持ち、チーム医療における重要な役割を担っている。今後もCEへのタスクシフトはさらに進むと考えられるが、その際にはCE自身も自己啓発や教育を積み重ねて質の高い業務を提供できるように努めたいと思う。また、タスクシフトに伴う責任やリスクについても十分に認識し、医師との連携やコミュニケーションを密にして安全な医療を実現できるようにしたいと思う。タスクシフトは医師の働き方改革だけでなく、CE

の働き方改革でもあると考える。CEとしてのやりがいや魅力を感じながら、タスクシフトに積極的に取り組んでいきたいと思う。